

平成29年度 西東京市立谷戸小学校 学校自己評価表

学校教育目標 ・元気で、粘り強い子 ・進んで学び、行動する子 ・心の豊かな子
目指す学校像（ビジョン） 【目指す学校像】 ・子供の瞳が輝き、声が響き合う、幸せ追求の学校 【目指す児童像】 ・将来を夢見て、よく考え、主体的に共同する健康な児童 【目指す教師像】 ・創意工夫に満ちた授業の充実に努め、子供の心に灯をともすことのできる人間力ある教師
本校の実績と課題 ①若手教員が多数おり、児童理解とともに、学級経営や授業技術など教員の指導力の向上に取り組む。 ②児童の体力の向上は見られるものの、体力の2極化傾向がある。生活振り返り週間では、自己の生活を見直すきっかけになっている。保護者の協力を得て、自ら健康的な生活に向けて改善できるように健康教育や体力の向上に取り組む。 ③全学年に特別支援が必要な児童がいる。児童一人一人を大切にした授業を実施するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを交えて個に応じた対応をする。 ④保護者・地域は大変協力的である。ホームページで学校の情報を積極的に発信し、保護者・地域との連携を進め、開かれた学校を推進する。

平成29年度 西東京市立谷戸小学校 学校自己評価表

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力指標(評価基準)	職員評価	成果指標(評価基準)	職員評価	現況	委員評価と改善策							
学力の向上	基礎基本の定着とともに、分かる授業、質の高い授業の実現に努める。	基礎・基本の定着を図り、自ら学ぶ力を育てる。	・全員が主体的に学習活動に参加し、考えをもち、話し合いや発表する場を全学級で設定する。	4 教職員の取組評価がA	3	4 児童の達成度の評価A	3	児童が学習内容に興味・関心をもち、見通しをもって取り組むことができるよう指導の工夫をした。また、児童が話し合っ課題を解決したいという必要感のある場面をもち、話し合い活動を行うように心がけた。	2学期の協議会では授業参観したが、子供たちが自分の考えを発表する、または交流し合うという場面が多く見られた。今後も続けて欲しい。							
				3 教職員の取組評価がB		3 児童の達成度の評価B										
				2 教職員の取組評価がC		2 児童の達成度の評価C										
				1 教職員の取組評価がD	1 児童の達成度の評価D											
				4 年間60冊以上	4	4 児童の自己評価で、達成度90%以上	3			2月末の一人あたりの貸し出し実績は65冊だった谷戸図書館と連携し、全学級が図書館の本を30～40冊、学級文庫として置いている。読書を推進する図書委員会の様々な取組も継続している。						
				3 年間50冊以上		3 児童の自己評価で、達成度80%以上90%未満										
				2 年間40冊以上		2 児童の自己評価で、達成度70%以上80%未満										
				1 年間40冊未満		1 児童の自己評価で、達成度70%未満										
				4 教職員の取組評価がA	3	4 診断テストで、80%以上が90点以上	3			漢字や計算は基礎・基本なので、低学年のうちに練習して覚える習慣を定着させたい。また書くことを取わない子供をつくりたい。ノートコンテスト等を行って、自分なりに工夫した漢字練習ノートや、予習・復習を含め学習のまとめをしたノートを作成したりする活動を活性化させることは、基礎・基本の定着に役立つのではないかと。						
				3 教職員の取組評価がB		3 診断テストで、70%～79%が90点以上										
				2 教職員の取組評価がC		2 診断テストで、60%～69%が90点以上										
				1 教職員の取組評価がD	1 診断テストで、60%未満が90点以上											
4 教職員の取組評価がA	3	4 診断テストで、80%以上が90点以上	3	毎週木曜日の朝学習では計算練習に取り組んでいる。また東京ベアードリルを活用し、2、3年生は1学年前、4年生以上は2学年前のシートを合格するまで繰り返し、計算技能を確実にしている。												
3 教職員の取組評価がB		3 診断テストで、70%～79%が90点以上														
2 教職員の取組評価がC		2 診断テストで、60%～69%が90点以上														
1 教職員の取組評価がD	1 診断テストで、60%未満が90点以上															
人権教育	人権教育を充実させ、いじめや体罰の根絶に努める。	人権教育を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。	・日常からのあいさつ、感謝の言葉、言葉遣いを継続的に指導し、豊かな人間関係を作る。		4 教職員の取組評価がA	3	4 児童の達成度の評価A	3	1学期は地域と連携した取組、2学期は6年生が中心となった取組、3学期は5、6年生が中心となった取組を行った。いつでもどこでも誰にでも自分からあいさつができる児童を育てたい。		大雪の翌朝、道路の雪かきをしていたら、谷戸小の子供が「ありがたいとございます」と言って登校していった。挨拶もできていると思う。小学生に限らず、女子の言葉遣いが悪いと感じることがある。					
					3 教職員の取組評価がB		3 児童の達成度の評価B									
					2 教職員の取組評価がC		2 児童の達成度の評価C									
					1 教職員の取組評価がD	1 児童の達成度の評価D										
					4 教職員の取組評価がA	4	4 児童の満足度の評価A	3		毎学期のいじめ防止の授業と生活アンケート、SCIによる4、5年生との全員面接、月に2回行ういじめ防止委員会、個々のケースに対応したケース会議等で防止、早期発見、対応に努めている。						
					3 教職員の取組評価がB		3 児童の満足度の評価B									
					2 教職員の取組評価がC		2 児童の満足度の評価C									
					1 教職員の取組評価がD		1 児童の満足度の評価D									
				体力の向上	丈夫な体とたくましい心を育てる。	健康教育を推進する。	・元気がいっぱいカード等の取組を年4回以上設定し、睡眠時間・朝ご飯・歯磨き・排便等、基本的な生活習慣の改善を図る。	4 全学年全学級で実施				4	4 児童の達成度の評価A	3	運動会の前や、長期休業が空ける5日前からなど生活習慣が崩れる時期に元気がいっぱいカードの取組を行い、家庭と連携した生活の安定に努めている。	生活習慣や食育は本来家庭がその役割を担うべき。保護者への啓発が必要である。
								3 実施率80パーセント以上					3 児童の達成度の評価B			
								2 実施率60パーセント以上					2 児童の達成度の評価C			
								1 実施率60パーセント未満					1 児童の達成度の評価D			
4 教職員の取組評価がA	3	4 保護者・児童の満足度の評価A	3					食器の置き方を教室掲示の給食献立表に掲載したり、毎日の給食通信で食材や栄養についての紹介をしたりして、食育指導を行っている。また、ランチルーム給食時に栄養士からの話をしている。								
3 教職員の取組評価がB		3 保護者・児童の満足度の評価B														
2 教職員の取組評価がC		2 保護者・児童の満足度の評価C														
1 教職員の取組評価がD	1 保護者・児童の満足度の評価D															
4 教職員の取組評価がA	3	4 児童の自己評価で、達成度90%以上	3						体育の準備運動では、ランニング(周走)・鬼ごっこ等、走る運動を取り入れた。授業の中で、運動の順番を持つ児童がなように、場を増やしたり運動を組み合わせたたりして指導の工夫を図った。							
3 教職員の取組評価がB		3 児童の自己評価で、達成度80%以上90%未満														
2 教職員の取組評価がC		2 児童の自己評価で、達成度70%以上80%未満														
1 教職員の取組評価がD		1 児童の自己評価で、達成度70%未満														
4 教職員の取組評価がA	3	4 児童の自己評価で、達成度90%以上	3	ジャンプアップの期間は全員が外に出る機会となり、体を動かすことができた。ジャンプアップ以外の時期は室内で過ごしたい児童も多い。												
3 教職員の取組評価がB		3 児童の自己評価で、達成度80%以上90%未満														
2 教職員の取組評価がC		2 児童の自己評価で、達成度70%以上80%未満														
1 教職員の取組評価がD	1 児童の自己評価で、達成度70%未満															
特別支援教育	一人一人を大切に、特別支援教育を推進する。	特別支援教育の充実を図る。	・児童の困り感を保護者・学校が共有し、コーディネーターを中心に特別支援教室やカウンセラーと連携を取りながら児童一人一人を大切に教育支援を推進する。		4 教職員の取組評価がA	3	4 保護者・児童の満足度の評価A	3		困り感のある児童はコーディネーターや特別支援教室の教員、カウンセラーと連携して校内の支援会議で対応を話し合ったり、また巡回指導アドバイザーに相談したり等、支援を進めた。	個別に支援を受けることを避ける保護者もいるが、受けられる支援は積極的に受けるべきである。また全校対象にSNSを使用する際のモラルや危険回避について、セーフティ教室を開いた。					
					3 教職員の取組評価がB		3 保護者・児童の満足度の評価B									
					2 教職員の取組評価がC		2 保護者・児童の満足度の評価C									
					1 教職員の取組評価がD	1 保護者・児童の満足度の評価D										
					地域との連携	地域に開かれた学校づくりを行う。	安心・安全な学校づくりを行う。	・セーフティ教室(情報モラル・不審者からの危機回避・薬物乱用防止)、交通安全教育、避難訓練等防災教育の充実や教育環境の整備を保護者・地域とともに進めていく。	4 教職員の取組評価がA			3	4 保護者・児童の満足度の評価A	3	交通安全については学級指導と共に監視隊から送付されるチラシを学級に掲示して注意喚起を図っている。また全校対象にSNSを使用する際のモラルや危険回避について、セーフティ教室を開いた。	危険を予測し、自分の身を自分で守れる子供を育てるために、生活安全、交通安全、災害安全の各分野において引き続き指導を行って欲しい。
									3 教職員の取組評価がB				3 保護者・児童の満足度の評価B			
									2 教職員の取組評価がC				2 保護者・児童の満足度の評価C			
									1 教職員の取組評価がD			1 保護者・児童の満足度の評価D				
				4 教職員の取組評価がA					3			4 保護者・児童の満足度の評価A	3	今年度も総合的な学習を中心として様々な地域の方に学習活動のお手伝いをしていた。展示会では6年生が地域の方に招待状を出し、交流するなど地域と関わる良い機会となった。		
				3 教職員の取組評価がB								3 保護者・児童の満足度の評価B				
				2 教職員の取組評価がC								2 保護者・児童の満足度の評価C				
				1 教職員の取組評価がD								1 保護者・児童の満足度の評価D				
4 教職員の取組評価がA	3	4 保護者の満足度の評価A	3	今年度も月2回以上の更新を行うことができた。学年便りや学級便りでは児童の学習活動や生活の様子もお知らせできた。												
3 教職員の取組評価がB		3 保護者の満足度の評価B														
2 教職員の取組評価がC		2 保護者の満足度の評価C														
1 教職員の取組評価がD	1 保護者の満足度の評価D															